



【進路行事について】

《2学年 10月26日(木) 大学ドリーム講座》

大学の模擬講義を受講することで、「学問」が人間・社会とどう関わり、いま直面する課題をどう解決し、どのような世界を築いていくかということについて考えを深め、自らの進学志望の具体化に役立てることを目的として実施しました。

【自己実現力】【課題発見力】【受信力・発信力】

《ガイダンスの様子》



《ガイダンスの内容・感想》

東北大学 文学部 横溝 博 教授

【源氏物語の表現を読む ―「昔」と「いにしへ」】

●感想 「源氏物語」を通じて言葉の繊細なニュアンスを読み取ることで同じ状況、登場人物でも当時の人物の心情やその後の展開の流れの捉え方などに違いが感じられることが面白く感じました。辞書では同じ意味として表記されていても当時の人々は使い分けをしていることなどあると聞いて、言葉は過去と現在を繋ぐ重要な役割を果していると感じ、より当時の人々の感覚に近づくためにも言葉のニュアンスの細かい違いに敏感になりたいと思いました。「源氏物語」にも興味を持ち、1度読んで、辞書も読み比べてみたいと思います。

弘前大学 人文社会科学部 森 樹男 教授

【With コロナ時代における 観光振興と地域活性化】

●感想 観光資源は、価値が周りに認識され整備されて初めて観光対象になると感じました。地域の魅力を伝えるためには、他の地域との明確な「違い」が絶対に必要だということも分かりました。「違い」を生み出すためには、様々な視点や方法でのアプローチがあり、一番大切なのは「ターゲットと誰にするかを明確にする」と感じました。実際に有教で行われている取り組みも、ターゲットが定められて、しっかりターゲットのニーズに沿って行われていると感じました。自分で行うべき内容は、誰に何をどう伝えるかを考えていることが基礎になることを信じて頑張りたいです。

東北大学 法学部 伏見 岳人 教授

【日本政治外交史(研究テーマ)】

●感想 今回のお話を、今まで疑問に思っていた政治をなぜ法学部で学ぶのかということの答えを見ることができたので良かったです。日本の政治の歴史として重要な部分も知ることができました。雑誌でお話を伺った、自分がいる場所の大切さや魅力などが外から見ればわかるということに納得しました。高校の勉強が大学で学ぶことの基礎になることを信じて頑張りたいです。

宮城教育大学 教育学部 市瀬 智紀 教授

【国際的な教育の潮流と教育の未来】

●感想 今回の講義では大学内の授業も、教育における現状の課題とその解決策に焦点を当て考えさせられた。私が普段見ている所で多くの問題が蓄積していて、それは将来の世代ではなく、今の世代の私たちが解決するべきことであるという事実に向き合えた。教員になるというには教員の勉強と生徒に教えるだけでなく、いじめ虐待、地域格差、経済格差などのあらゆる問題に関心を持ち、生徒たちに寄り添う役割を担っていることである。これからはSDGsなどのグローバルな問題と、グローバルな視点で向き合っていきたい。

東北大学 理学部 物理系 服部 誠 准教授

【宇宙創成期を偏光観測で観る】

●感想 宇宙物理学に関して、正直内容は天体の位置や天体での軌道計算など、あまり内容が難しい学問ではなかったが、「暗黒」や「重力」の話、複雑な波など、今までに物理の内容を組み合わせるとは、あまりにはわかりにくい宇宙の謎を解明しているのを知り、高校の物理で学んでいることが、大学や一般社会での物理の基礎になるのを知った。今習っている物理の内容を確実にできるようにしたい。

東北大学 工学部 化学・バイオ工学科久保 正樹 教授

【ものづくりのための化学と工学】

●感想 ナノサイズの粒子は表面積が大きくなり、互いに接触しやすくなるという特徴があり、それを利用して、現在広く使われているスマホの5倍の厚さのスマホを作れるという話が面白かった。また、やはり高校生での勉強は、大学生の時だけでなく、大人になっても役に立つことが多いことがわかったので、今の勉強が将来の自分につながることを想定して頑張ろうと思った。

岩手大学 農学部 斎藤 靖史 准教授

【DNA、遺伝子とゲノム編集】

●感想 1年生で習った生物基礎の内容と重なっている部分も多く、初めて聞く内容でなかったのでも理解がしやすかった。また、生物基礎よりも深く入り込んだ内容も、動画や図でとてもイメージがしやすかったので楽しく聞くことができた。2年生では生物も早学ではないが、大学では生物を学びたいと思、ているので、今回聞いたお話を忘れずに頑張りたい。進路を考えた上で、選択肢が増えるよい機会となった。

はこだて未来大学 システム情報科学部 佐藤 生馬 准教授

【生体医工学、コンピュータ外科(研究テーマ)】

●感想 AIと医療のお話を聞いて、「少子高齢化や労働力不足の問題」として、日本に必要なのは技術やスキル、AIを用いた医療を育てていくこと、これは大切なことだと改めて感じました。特に、「ロボットや最先端医療で合同開発した「モバイルSCOT」は、手術に5分を用いた手術室を再現すること、医師不足の地域や災害時に、1990の人に医療を届けられる素晴らしい技術だ」と感じました。日本で行われている様々な技術、開発についてもっと知りたいと思、ます。

弘前大学医学部 鬼島 宏 教授

【心音の機序 ― 患者さんへの配慮を忘れずに聴診を行う ―】

●感想 今回の講義では、実際に聴診をすることで患者への配慮の仕方、心臓の動く仕組みなどについて学ぶことができて良かったです。正しい位置に当てるとは難しい、普段自分が何気なく受けている病院での診察も、医師は様々な配慮をしながら、正確な診断をするという高度なことで行っているのが改めてよく分かりました。また、今以上に電動化されていないというお話をからも、医師の仕事の難しさや大切さを感じられました。

《 1・2学年 10月7日(土) 10月22日(日) 読売新聞高校生向け医療体験プログラム 未来の医療を創る君へオンラインセミナー 》

読売新聞主催の医療体験オンラインセミナーを聴講することで、高度先進医療に携わる医療従事者は、日々どのような思いで命と向き合い、どのような未来を見据えて働いているのかを学ぶ、良い機会とすることを目的として参加しました。

【自己実現力】【課題発見力】

《ガイダンスの内容》

[第1回セミナー] 13:30～16:15 東北大学

テーマ：【画像で病気を診て、針と管で治療する
～ 放射線診断医の世界 ～】

講師：高瀬 圭 教授（放射線診断科）
大田 英揮 教授（メディカルITセンター）
森下 陽平 助教（放射線診断科）
木下 知 特任助手（放射線診断科）



[第3回セミナー] 13:00～16:30 順天堂大学

テーマ：【高校生に伝えたい】

講師：天野 篤 特任教授（心臓血管外科）
中西 啓介 准教授（心臓血管外科）
猪俣 武範 准教授（眼科）
掛水 真帆 助手（麻酔科）
石山 明日香 助教（小児外科）



【ICT 端末を探究・研究に活用しよう】

教育分野のICTについては、近年、Education（教育）とTechnology（技術）をかけたEdTechという造語で知られるように、様々なものが開発されています。EdTechの中でも着目されているもののひとつが、Massive Open Online Course(MOOC ムーク)です。MOOCはインターネット上で誰もが無料で受講できる大規模な開かれた講義です。

2012年にアメリカで始まったMOOCは、日本でも2013年に一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)が設立され、日本語によるMOOCの提供及び普及拡大が進められています。JMOOCでは、大学講師陣および企業が提供する本格的なオンライン講義を公開し、誰もが無料で受講できる教育サービスを提供しています。複数の講座配信プラットフォームをまとめるポータルサイトの役割を果たしており、JMOOCサイトで全ての講座を閲覧・検索・受講することができます。大学教育の拡大という側面の他に、幅広い年齢層の人達に対する教育効果が期待されていて、例えば以下のような3点が挙げられます。

- ・高校と大学での教育の連携
- ・生涯教育への貢献
- ・変化の激しい分野における専門性のカバー

高校と大学の教育の連携については、大学教授を講師として迎え入れ、ビッグデータなどの最先端技術に関する授業を高校生に対して提供することで、教育機関の縦の繋がりを促進させています。また、講座提供機関や講座内容によって、下記3つの種類に分かれています。

カテゴリーⅠ：大学が提供する大学通常講義相当の講座
カテゴリーⅡ：専門学校・高等専門学校が提供する講座、
公的研究機関推薦講座、学会推薦講座
カテゴリーⅢ：大学が提供する特別講義および公開講座相当の講座、企業等が提供する講座等

Society 5.0の時代を生きていく中で、みなさん一人ひとりの可能性を引き出すためには、学校現場におけるICTの積極的かつ適切な活用が効果的とされています。探究活動や自分の興味関心に合わせて活用していきましょう。



〔画像はJMOOCホームページより一部抜粋引用〕